

日本史研究推進委員会 共同研究「日本近現代史をどう教えるか」経過報告

瀬谷 高校 長島 一浩

月例会は委員の勤務校等諸施設にて開催、学習会・研究報告を中心に活動審議・情報交換を行い、「日本史サマーセミナー」、夏季・冬季の巡検を実施しています。学習会はレポーターを設定、その研究成果は各研究大会にて発表します。今年度の共同研究テーマは例年テーマの「日本近現代史をどう教えるか」で、実教出版『新日本史A』の単元内容での授業研究、今迄のテーマ「神奈川の教材化」をふまえ、多様な視点と最新の研究成果を取り入れ、授業実践にすぐに使える教材研究を意図しています。日本史研究及び、歴史教育研究に関心のある方は是非、お気軽にご参加下さい。

月例会 2017（平成29）年度実施 会場校など（研究報告・学習会内容）

・4月：柏陽（研究・学習会の計画検討）・5月：瀬谷（「開国」、サマーセミナー予備発表「ハンセン病治療と明治日本の近代化」）・6月：湘南、世界史委員会合同（「移動する人々」・「アジアのなかのモダニズム」）・8月：柏陽（サマーセミナー予備発表「植民地期の日本における朝鮮人」）・9月：座間総合（「新しい文化交流」、「沖縄と旧植民地」）・10月：秦野曾屋（「都市の生活と農村の生活」、「昭和恐慌」）・11月：鎌倉国宝館・特別展示見学、鎌倉学園（「社会問題から社会運動へ」）・12月：大磯（「総動員の時代」）・1月：相原（「大日本帝国の選択肢」、「第1次世界大戦下の社会」）・3月：柏陽（研究発表「高校日本史で戦争をどう教えるか」）

研究発表

・歴史分科会研究発表会（3月9日）「高校日本史で戦争をどう教えるか～民衆の戦争体験を読み直す」
矢野 慎一（柏陽高校）

日本史サマーセミナー ※大学教員・歴史教育者による日本近代史の授業と研究、詳細は別項参照。

今年度は例年より拡大して、8月21・22・23日の三日間、以下のテーマで実施されました。

“戦争と植民地”

- ・「植民地期の日本における朝鮮人～1930年代、40年代を中心に～」中山拓憲（舞岡高校）
- ・「戦争と兵器：兵器から国家の戦略、軍隊の戦術を読み解く」山田朗（明治大学）
- ・「山村の学院（ハゴン）～人びとはどこから来て、どこへ行ったか？：長野県平岡村1940-1950」大串潤児（信州大学）

“マイノリティとジェンダー”

- ・「ハンセン病治療と明治日本の近代化～医師増田勇の活動を通して～」木村芳幸（鶴見高校）
- ・「被差別部落の近代が問いかけるもの」石居人也（一橋大学）
- ・「視座としてのジェンダー射程～歴史教育にとってどのように有効か」長志珠絵（神戸大学）

“戦後と現代社会”

- ・「戦後日本政治史」杉山登（逗子開成中学校・高校）
- ・「戦後日本の出発」成田龍一（日本女子大学）
- ・「高校生の歴史観や国家意識とこれからの授業（日本史）～「日本国憲法の成立」と「鎌倉幕府の成立」の授業を素材に～」加藤公明（元東京学芸大学）

巡検

夏季（8月10日）は埼玉県行田市周辺、埼玉県立さきたま史跡の博物館・さきたま古墳群、行田市郷土博物館・忍城跡など見学。冬季（1月6日）は、逗子・葉山方面、長柄桜山古墳群、逗子郷土資料館、鎌倉・名越の切通しなどを見学しました。関係各位に厚く御礼申し上げます。